

冬休み 庭に小鳥を

可愛い友だちを招待するために



愛鳥の心が育てるよい環境

●美しい自然に親しみ、庭に小鳥をのびのびと暮らすことができます。三宅島には、自然と共生する鳥類を育てるための「三宅島鳥類保護連盟」があります。〒103-8191 東京都中央区日本橋區区私鉄豊洲2-3-1号サントリー株式会社鳥類保護センター（三宅島）

●トリの好きなエサと実のなる木
（ヒエ・アワ）スズメ、ホオジロ、アオジなどの小鳥とコジュケイ、《アサの実》スズメ、カワラヒワ、シメ、ウツ、ペニマシコなどくらばしの太い種類とヤマガラ、《ヒマワリ・カボチャ・スイカのタネ》カワラヒワ、シメ、シジュウカラ、《クルミ・ピーナッツ》シジュウカラ、ヤマガラ、コガラ、ヒガラなどカラ類、《パンくず》オナガ、ムクドリ、ツグミ、シジュウカラ、ウグイスなど。《砂糖木：ジュース》ウグイス、ヒヨドリ、メジロ、《牛や豚のあふら身や骨》シジュウカラなどカラ類、モズ、オナガ、ウグイス、《かきなどの果物》シジュウカラ、ツグミ、オナガ、ムクドリ、ヒヨドリ、《トキワサンザシ》オナガ、ムクドリ、ヒヨドリ、ツグミ、ジョウビタキなど。《タチバナモドキ》なくさんの種類の野鳥がたべる。このほか、ヒサカキ、マサキ、イヌツグ、サンショウ、ツルウメモドキなど。

トリたちにとって、冬は自然のエサが不足しがちです。ですから、この時期にエサを与えることは、栄養を補い、弱ったり凍死したりするのを防ぎ、来年の繁殖率を高める大きな役割を果たします。冬休みの間、じっくり観察してみませんか。トりの名や特徴がわかって、面白いですよ。ただし、春になったらエサ場をかたづけ、トリたちが自然の中で自然のエサを求められるように――野鳥の招待は、冬の間だけにしましょう。

トリを上手に招待するには

まず、①驚かさぬこと。②エサを絶やさないこと。③エサの場所を変えないこと。の3つを守ってください。

エサを与えるのに、特別な入れものが必要というわけではありません。平たい石や、中の朽ちた丸太でも、地面に置いてよいのですが、風に飛ばされたり、雨で流されたり、犬やネコにじやまされやすいような工夫が大切です。エサは市販のものもありますが、ほかに、ヒエ、アサノミ、トウモロコシ、ヒマワリやカボチャのたね、ピーナッツやクルミを砕いたものをまぜたり、ジュースや砂糖水、牛や豚のあふら身など、意外なものもトリたちの好物になっています。最後に水も忘れずに。



財団法人日本鳥類保護連盟
サントリー株式会社

●この広告は、財団法人日本鳥類保護連盟の指導を得て、サントリー株式会社からシリーズとして制作するものです。